

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990600132		
法人名	社会福祉法人 昂希会		
事業所名	グループホーム ひだまり		
所在地	栃木県日光市塩野室町1504-26		
自己評価作成日	平成29年10月20日	評価結果市町村受理日	平成30年2月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6
訪問調査日	平成29年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活を共にすることで、入居者一人一人の個性や好みに合わせた支援を心掛けております。普段の会話の中から聞かれる声に耳を傾け、行きたい場所、食べたいもの、やってみたい事など、一つでも多く実現できるよう取り組んでおります。毎日をご自分のペースでゆったりと穏やかに過ごしていただく事を第一に考えた支援に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山々が見渡せる自然豊かな場所に位置し、周辺には特別養護老人ホーム等の福祉施設もあり、安心して生活できる環境にある。利用者が日中過ごすリビングは、暖かな日が差し込み、まさに「ひだまり」のようなゆったりとした時間が流れている。職員は、利用者の思いに寄り添う支援を心掛け、食事の時間やレクリエーションをはじめ、生活全般と一緒に楽しみながら支援している。また、洗濯やお皿拭きなど、利用者ができることは職員が見守りながら行い、自立を促す支援を行っている。晴れた日には近隣への散歩や買い物等、楽しんで笑顔で生活できるよう、利用者の希望を聞きながら、その希望を実現できるよう支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に掲示し、いつでも確認できるようにしている。信頼関係の構築に努め、本音を引き出せるような対話から、それぞれの方の思いに答える努力をしている。内容についてはカンファレンスで話し合い、情報の共有を図っている。	法人理念とは別に、事業所としての理念があり、利用者の笑顔や事業所の雰囲気とその理念が表れている。職員間で理念の共有を図るとともに、日々のケアにも反映できるよう心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域にある児童館の運動会、ハロウィンに参加させてもらったり、クリスマスには同一法人の施設に来てもらったりと交流を図っている。また、地域のボランティアの定期的な受け入れを行っている。	近隣の児童館等の協力により、利用者は季節に応じて様々な行事に参加している。地域のボランティアによるレクリエーションや傾聴、工作等、定期的な交流を行い、利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践していることが無いため課題としたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で日常の様子や、外部評価の報告などを行い、それをもとに地域の方やご家族から貴重な意見を頂いている。事情により会議の開催が定期的に出来なかったため今後の実施に向けて取り組みたい。	家族会の代表者・消防・警察・民生委員・行政等の参加のもと、法人の事業所と合同で開催を予定している。	関係機関等との情報共有を図る場であるとともに、行政機関との協力関係を構築する場としても貴重な機会であることから、今後の定期的な会議開催を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない事があればすぐに市町村に連絡をして確認をするようにしている。	不明なこと等があれば、市行政に確認を取り、助言をもらうなど、情報共有を図りながら取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	以前のように同一法人で合同での委員会の開催は出来ていないが、GHで出来る範囲で身体拘束に関するアンケートを実施し、結果を集計して課題解決に向けて話し合いを行っている。	職員に対して身体拘束に関するアンケートを実施し、その集計結果を元にカンファレンスを行い、情報の共有を図っている。さらに日頃のケアに結びつけられるよう、全職員が日々取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常の中で虐待が行われないよう、スタッフ同士で注意を払い出た意見についてはその都度話し合っている。痣や傷などに関しても事故報告書を出し、原因究明と改善策などを検討するなどして虐待防止に努めている。		

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	専門的知識について、外部研修等を活用し学習する機会を持ちたいが、今のところ出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者や家族の立場に立ち、不安や疑問点を含め丁寧に説明を行い、納得された上で契約を行っている。改定等がある場合も、同様に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者には日頃の会話の中からもご意見や要望などが聞かれたら出来る限り実現している。また、気軽に意見や要望が言えるような信頼関係を築けるよう努めている。ご家族には面会時や家族会などでご意見や要望などを少しでも多く聞けるよう機会を作っている。	利用者の何気ない会話から思いをくみ取り、支援につなげる努力をしている。家族に対しても、面会時や家族会の開催時に利用者の様子を伝えるとともに、意見や要望等を表してもらえよう、信頼関係の構築に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員間でのコミュニケーションを大切にし意見や提案があれば月1回行っているカンファレンスで職員全員で話し合っている。	職員に対しては、日頃の対話や面接等を通して、意見等の把握に努めている。新しい職員に対しては、ケアの方法等を細かく伝え支援することで、仕事に対する意欲を引き出せるよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の仕事への取り組み方、勤務状況などを代表者へ報告することで状況把握を共有し、職員其々の個性や、得意分野、専門知識などを現場での勤務に活かすことでやりがいや向上心を高める努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員其々の現状での習熟度を把握し、それに合った外部研修への参加を促している。また、様々な研修の告知をし、其々の興味のある研修には参加できるよう勤務の調整などを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会に入会し、研修などへ参加している。同一法人のGHと連絡を取り合い報告、相談などを行っている。		

グループホームひだまり

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との面談を通して、不安なことや要望を出来るだけ聞き出せるよう、環境を配慮したり話し方を工夫するなどして心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	玄関にご意見箱を設置しているほか、家族様からの不安な事や困り事、要望は聞くようにしている。相談受け付けや調査の際は、家族と面談を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望や意向を踏まえ、GHでのサービス内容を説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の気分や状態を考慮しつつ、一緒に清掃や買い物をしたり、食事に関わる盛り付けや食器拭き等をしている。外出の機会も、可能な限り作るよう努め、共に支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在の家族様との関わりは、主に電話連絡時や面会時、家族会時となっており、その際にご本人の様子を報告したり、ご本人・家族様の思いを伺いつつ一緒に支えられる様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の際に行きつけのお店を尋ねたり、御家族以外の面会も広く受け入れ、気軽に面会に来て頂けるよう対応し、馴染みの人との関係の継続に努めている。	利用者の馴染みの店に出かけたり、家族支援のもと、利用前から通っている美容室に出向く等、変わらぬ関係や環境に配慮している。これまでの思い出を感じられるような内容を織り交ぜて会話するなど、つながりを継続できる支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性を考慮し、座席を工夫している。孤立しないよう、職員が関わるようにしている。また、レクリエーションや外出などは、皆で参加し楽しめるような内容の提案に努めている。		

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実践出来てない為、今後は取り組めるよう体制を整えたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、ご本人や家族の希望・意向に耳を傾けている。状態により困難な場合は、本人に寄り添い表情や仕草等から汲み取るよう努めている。	利用者の仕草や表情、何気ない会話の中から、今何をして欲しいのか、どこかに行きたいのか等、思いを把握するよう心掛けている。その思いの実現に向けて、職員同士、共有と連携に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境等は、事前調査の情報や普段からコミュニケーションを取ることで、把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らし方や生活のリズム、その時々々の心身状態を把握し、それらも踏まえた上で出来る事・出来ない事を見極めている。変化があればカンファレンスなどで話し合い職員間での情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで、より良く暮らすための課題、ケアの在り方等を話し合い、内容を全職員で共有している。	本人の思いや家族の意見も取り入れながらの作成を心掛けている。職員間のカンファレンスも行い、より現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々過ごしている中での様子行動、発した言葉や会話、気づき等を個人記録として残している。また、引き継ぎ時の申し送りや連絡ノートで、情報共有し共通理解を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体状況の変化により、御家族対応の通院時に自家用車での送迎が困難な状況があり車椅子のまま乗車できる施設車での対応をさせて頂いた。また、買い物や外出も、事前計画の有無に関わらず状況に応じて行っている。		

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、地域の児童館の催しに参加させて頂いているほかは、地域との直接的な関わりが持てていない。交流が持てるよう体制を整えたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月協力医の往診があり、状態の報告を行っている。何かあれば協力医より指示を仰ぎ、協力医への受診、状況によりかかりつけ医への受診を行っている。疾患や特変等は、家族様へ確実に正確に伝達するよう努めている。	協力医による内科の往診に加え、歯科や皮膚科等は家族対応によりかかりつけ医を受診している。協力医は、緊急時にも対応可能であり、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師不在の為、協力医、上司へ報告・相談し適切な対応が出来るよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、サマリーを提出している。入院時は面会に行ったり、病院での状況報告が行われる際にはご家族の了承を得て一緒に参加させて頂いている。退院された後は、ご本人・家族様の思いを汲み取りつつ、安心して生活出来るような環境作り・支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、看取り介護は行っていないが、定期的に看取り介護勉強会を行い、職員間で知識を深めている。	利用開始時に、終末期の対応について家族から意向の確認を行っている。職員間で看取りについての勉強会を開催し、学びを深めながら対応方針の共有を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの使用法等を含めた救急救命の講習に参加するようにしている。緊急時や事故発生時の対応方法はあるが、定期的に確認したり知識を深められるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年数回し、夜間想定訓練も行っている。今後も新入社員を含め、重要性を認識するよう定期的に訓練を行い緊急連絡網の整備も行っていく予定。	消防訓練を実施し、水や食料等の備蓄も行っている。隣接地に同法人が運営する事業所があり、災害時には連携して対応することも可能である。	近隣住民との協力体制の充実や、全職員が迅速に対応できるよう、夜間想定も含めて訓練方法を工夫するなど、更なる取り組みに期待したい。

グループホームひだまり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、職員よがりの声掛けにならないよう注意したい。プライバシーを損ねないよう、排泄の確認を職員同士で伝達する際、他入居者に分からないよう工夫するよう心掛けている。	本人の気持ちを大切に、呼び方にも配慮し、プライバシーを損ねない対応をしている。会話の際も、目線を合わせたり、分かりやすい言葉かけを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から信頼関係の構築に努め、会話の中から思いや希望を聞き出せるよう努めている。提案する際も本人の意向を確認しながら話しを進めていくよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中は、リビングで塗り絵やパズルをする方、新聞や雑誌・本を読んでもる方、テレビを観てる方等があり、入居者のペースで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	主に、入浴時等の着替えの際に好みの服を着られるよう、服を選んで頂いている。散髪は、希望するかしないかによって行ったり、分からない方も定期的に行っている。家族と馴染みの美容室に行かれる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れながら職員が献立を作成し、入居者と買い物に行っている。また、食材を切ったり混ぜたり、盛り付けも一緒に行っている。食後は、食器拭きをしてもらっている。	職員が献立を作成して利用者と共に買い物に行っている。利用者の好みや状態に合わせて食事の盛り付けを工夫したり、食材を切ったり、出来ることを一緒に行っている。職員も一緒に食事をし、会話をしながら楽しく食事ができるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの好みを把握し、バランスを考慮しつつご本人に合った量を提供するよう努めている。水分量も常にチェックし、進まなかったり足りてない方には、声をかけたり飲みたい物を聞いて提供したり工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声をかけ口腔ケアをしてもらっている。自身で行えない方には、介助している。義歯には、週3回洗浄剤を使用し、清潔の保持を心がけている。また、必要時には家族に歯科受診の依頼を行っている。		

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、必要な方には声をかけ誘導している。その際はプライバシーや、汚物はトートバッグに入れ破棄する等配慮すると共に、必要に応じてリハビリパンツやパッドを使用する等自立に向けた支援を行っている。	記録により日頃の排泄パターンを把握し、声掛けすることで、トイレでの排泄を支援している。利用者の状態に合わせて、紙パンツやパット類も使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操を行ったり、食事で乳製品・果物・野菜を提供している。便秘の方には水分を多めに勧めたり、必要に応じて下剤を服用してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴して頂けるよう支援している。入浴中リラックス出来るよう、音楽を流したり、ご本人の希望により入浴剤を使用している。また、衣類の着脱、洗髪・洗身等はご本人のペースに合わせるよう努めている。	同性介助に配慮し、週2回入浴できるように支援している。浴室や脱衣所の室温にも配慮し、音楽を流したり、ゆず湯等季節を感じられるような工夫もし、リラックスして楽しんで入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況や生活習慣を考慮しつつ、必要な方へは就寝への声をかけを行っている。居室内の温度に配慮し、エアコンや包布等で調整したり、冬場は乾燥を防ぐべく加湿器を活用している。起床時や日中はシーツや包布類をたたんで置く等、環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の服用時は、ご本人に伺ってから行う等服用しやすいよう工夫している。口腔内に入り飲み込むまで見守り、空袋は職員2人でダブルチェックし、ミスが無いよう努めている。内服薬の変更があった場合は、伝達や記録等で情報共有するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活にメリハリをつけるべく、洗濯物たたみ掃除等を一緒に行っている。また、体操やレクリエーションの中で、一人ひとりの力を活かし楽しめ、気分転換出来るよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、状況に応じて季節毎の行事や催し物・買い物やドライブに出かけている。日々の会話等から外出先や食事の希望や伺い、可能な限りそれに添えるようにしている。	日々の会話の中から、本人の希望を聞き取り、その希望に添えるよう季節に応じた行事、買い物やドライブ等に出かけている。天気の良い日は、施設周辺を散策して楽しんでいる。家族の協力も得ながら、個別での外出支援も行っている。	

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金は、主に外出先での食事や買い物に使用している。本人がお金を持つ事の大切さを理解しており、状況に応じてご本人に支払ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、手紙や電話を希望される入居者はいないが、希望に応じて対応可能である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	所々に木材を使用し落ち着いた色彩で、陽の入り具合や空調等にも配慮している。リビングにはその時々で飾り付けをし、季節を感じたり楽しめるような雰囲気作りに努めている。	リビングには暖かな日が差し込み、明るくぬくもりが感じられ、浴室やトイレも清掃が行き届き、広く介助し易い空間となっている。キッチンで作る料理の音や香りがリビング内に広がり、利用者や職員の会話とともに、家庭的な雰囲気を感じられるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	現入居者は、日中のほとんどの時間はリビングの自席で過ごされている。自席の配置は工夫しており、少し離れた所にソファを置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの家具や家電品を持ち込んで頂いている。自身の作品や家族との写真等を飾っている方もおり、居心地良く過ごせるよう工夫している。	居室には馴染みの家具や時計、装飾品等を持ち込んでもらい、居心地良く過ごせるよう工夫している。ベッドの高さ等にも配慮し、利用者の希望に合わせたものを用意し、安心して生活できる環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札を付けたり、カーテンの色を変え認識しやすいよう工夫している。トイレ付近の壁にもそれだと分かるよう表示している。また、トイレやリビング周りの洗面台近くの手が届く所にペーパータオルを置き、自立して行えるよう工夫している。		